

この年の6月、藩医や和解御用の仕事、その一方で日本初の本格的な化学書『舎密開宗』の刊行と忙しく過ごしていた榕菴が、春から体調を崩し48歳という若さで亡くなってしまいます。興齋は養子と

江戸詰の津山藩医・宇田川家は玄真の後、玄真、榕菴と代々養子が続いていました。榕菴もまた子どもに恵まれず、45歳の時に飯沼興蔵（後に興齋と改名）を養子に迎えています。

興齋は、文政4年（1821）に、大垣（今の岐阜県大垣市）に住む医師・飯沼慾齋の三男として生まれました。慾齋は若い頃に江戸で榕菴の養父・玄真に学んでいて、植物への関心が深く、榕菴とも厚い親交があった人物です。父と同じように江戸へ出て榕菴の下で学んでいた興齋は、その才能を見込まれ、23歳で養子にと望まれたのです。

宇田川家に入った興齋はまず儒学者の広瀬旭荘に入門し、次いで坪井信道の下で医学と蘭学を学んでいます。信道は玄真の一番弟子で、この頃には長州藩医（江戸詰）の勤めの傍ら、開業して名医と言われていました。よほど興齋は熱心に学んでいたのでしょう、信道から「志の篤い書生だ」と褒められています。弘化3年（1846）には、早くも幕府の蕃書和解御用に手伝いとして召し出されました。

洋学博覧漫筆

～ 榕菴の後継 ～

興齋が活躍したのは、相次ぐ異国船の来航や、開国、そして明治維新へと社会が大きく変わっていく時代でした。興齋もまた、その歴史の流れの中に巻き込まれていくことになるのです。

なつてわずか3年で家督を相続し、和解御用の仕事も引き継ぐことになったのです。きっと、榕菴から学びたいことはまだまだたくさんあったに違いありません。榕菴の没後、坪井信道が緒方洪庵に送った手紙には「興齋はすこぶる才子で、原書も相応にでき、治療の才能もある。榕菴よりも世俗に通じているので、家計のことは少しも心配ないだろう」と書き残しています。信道の言葉の通り、この後興齋は医療や翻訳に力を発揮していきます。



▲宇田川興齋肖像画（早稲田大学図書館所蔵の写真を基に作成したもの）

洋学博覧漫筆では、今後宇田川榕菴の跡を継いだ興齋、そして箕作阮甫とその子孫について紹介していきます。

相次ぐ異国船の来航に揺れる中で、洋学研究に打ち込み、外交交渉などで活躍した箕作阮甫の半生を描いた長編小説『フレイヘイドの風が吹く』（市原麻里子著）が、3月31日（水）に右文書院から刊行予定です。ぜひ、ご一読ください。

津山洋学資料館

TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日、12月27日～1月4日

入館料

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
300円 (240円)	200円 (160円)	100円 (80円)

※（ ）内は30人以上の団体

問い合わせ先 津山洋学資料館（西新町）☎23-3324

知っていると
もっと楽しめる

洋学豆知識



コーヒーカン

宇田川榕菴がコーヒーを研究していたことはよく知られています。写真はコーヒーの煮出し器で、榕菴の原稿の中に描かれていた絵を基に作製した模型です。

榕菴コーナーの壁画には、榕菴の描いた絵がありますので、見比べてみてください。



ヒンデローペン

新館の常設展示室入り口と展示室[3]の出口は、ヒンデローペンというオランダの港町で生まれた伝統的技法でペイント装飾されています。

入り口は黒、出口は白をベースに、バラやポピー、鳥などの図柄が描かれていますが、中にこっそりと骸骨が隠れています。来館したら探してみてくださいね。

新製輿地全図

箕作者吾が出版した世界地図。当時ベストセラーとなり、吉田松陰や桂小五郎ら幕末の志士たちに大きな影響を与えました。今話題の坂本龍馬も、幼い頃に姉と一緒にこの地図に見入っていたという話が伝わっています。



木造人頭模型

寛政6年（1794）、オランダ商館長がろう細工の人頭模型を幕府の医師・桂川甫周に贈りました。甫周はすぐに職人に木造で模作させ、実物は今も東京大学の医学標本室に残っています。津山洋学資料館に展示しているものはその複製ですが、見ていると精巧な作りに当時の職人の技術力が伝わってきます（ちょっと怖いですが…）。

「薬草の小径」のハーブたち

「薬草の小径」には、日本、中国、東アジア、ヨーロッパなど世界中の薬草やハーブが約150種類も植えられています。ボランティアでお世話をいただいているハーバルツヤマ会員の皆さんのご協力のおかげです。代表の矢北貞夫さん（福力）は「葉や花のきれいなものを選んで植えました。珍しい種類のものもありますよ。4月中旬から新芽が出始め、5～6月には見頃になるでしょう」と教えてくれました。緑映える季節が楽しみです。

